

## 協力活動発表会

2023年2月25日(土)14:00~16:00

熊本市現代美術館アートロフト

司会 副実行委員長 田中琴都音

「アフリカの子どもの日」報告

(教育)

第一高校 2年 M.T

8回もの実行委員会でアフリカの国々のことを学んだ。

「遠い夜明け」というアパルトヘイト政策に抗議する黒人男性と彼を支持する白人男性との熱い友情を描いていて感動した。

グループは「ルワンダに学ぶ、アフリカに学ぶ」「教育」「環境」「紛争・貧困」の4つに分かれて学んだり留学生との話し合いも行われた。

アフリカの子どもたちは水くみや親の仕事の手伝いをするイメージしかなく、どんな教育がなされているか興味がありこのグループに入った。

マリーさんはルワンダ人で、青年海外協力隊として日本に来られ、その活動が終わってルワンダに帰国後2ヶ月で内戦がおこり、家族と共に難民になったという大変な経験をされている。難民キャンプで奇跡的に日本人医師と出会い彼の通訳を仕事にして生活できた。「日本語を学んだという教育のお陰で救われた」という言葉にとっても心を動かされた。まだまだアフリカでは貧しい家の子どもたちは十分に教育が受けられていない現実があり課題が残る。

留学生との交流はととても新鮮でもっと自分の思いを伝えられるようになりたい。アフリカのことをもっと知りたいと思った。

「アフリカの子どもの日」体験しての感想

第一高校 1年 Y.Y

「遠い夜明け」で黒人のピコは政府の政策に反対して警察に追われ拷問のち亡くなってしまったが白人ジャーナリストが彼がやろうとしたアパルトヘイトを本に書いて使命を果たした。

アフリカでは、白人が黒人を差別するアパルトヘイト政策、ヨーロッパの人々が民族を引き裂いたことで今でも内戦が続いていること、それに伴う文化も変わっていったこと等、色んなことが学べて良かった。

「アフリカの子どもの日」参加して学んだこと 八代高校 3年 A.N

「アフリカの子どもの日」に参加したことをきっかけにして将来を考えることができた。

アフリカの新しい面に気付いたし貧困だけでなく多くの問題を抱えていることを学んだ。アフリカの人々は限られたものの中で生活する力、政治に関心を持って行動する力を持っていることは見習わなければと思った。

私は将来、ジャイカの活動をしたいと思っていて、アフリカの教育をどうすれば良いのかを学んで実行していきたい。そのためには、アフリカの歴史を学び日本の教育が通用するかを調べアフリカに合った方法で進めたい。大学でアフリカの様々な面からみる学びを深めたいと思う。

## 「12/9 シンポジウム」

(温暖化)

熊本工業高校 2年 S.T

温室効果ガスが地球を覆うことで太陽の熱が閉じ込められ地球温暖化を引き起こす。温室効果ガスの76%がCO<sub>2</sub>であり、CO<sub>2</sub>排出は化石燃料を燃やして発電する時の副産物で、自動車や飛行機などの交通手段にも使用されていて減らすことは容易ではない。また森林伐採により異常気象に繋がり、人吉球磨川の氾濫、オーストラリアの山火事、グリーンランドの氷河崩壊など被害が拡大している。COP21で上昇を2°C未満に抑えることが採択されたが、社会の仕組みを丸ごと変える取り組みが必要とされる。

(事業所訪問・永野商店)

第一高校 1年 N.I

日々排出される大量のペットボトルやプラスチックの現状を知るためにリサイクル業者永野商店を訪問した。1日6Tものペットボトルを回収し、プラスチック資源循環促進法によりボトルToボトルへの取り組みがなされている。処理に使われる電力は太陽光パネルの自社電力で賄っている。廃材からパルプを作ったり、瓶の洗浄をして循環して使うことでエコになること、ゴミの増加により分別作業が大切でCO<sub>2</sub>の排出量を減らすことに繋がること分かった。私たちに出来ることは、ラベルを剥がすこと、キャップを取る、生ごみの分別・水切りをすることなど身近なところでやっていかなければと思った。

(事業所訪問・熊本トヨタ)

独自の視点であるライフサイクルアセスメント(生産から廃棄まで)の環境負荷を指数で表す取り組みをしている。ET車を今すぐ推し進めるのではなく、ガソリン車と生産の均衡を保つことがそれぞれのメリットを生かすことになる。ガソリン車は走行時に、ET車は製造時に同じ量のCO<sub>2</sub>を排出しているという問題を解決していかなければならない。

(ワクワク油田プロジェクト)

第一高校 2年 K.N

星子氏によるワクワク油田プロジェクトは廃油をバイオディーゼル燃料に変える取り組みで、1Lの廃油で19キロ走行できるという生活に密着した仕組みである。

廃油はゴミではなく資源という感覚を定着させなければならないと思う。小規模な体制なので住民に浸透してどこでも廃油の取り扱いが出来るようにすることが課題である。

(高須大使講演とジェンダーについて) 大津高校 3年 T.R

高須大使の講演で最も印象に残っていることは、男性における家事育児負担率は熊本県が最下位であることだ。熊本県はSDGsの認知度が日本一なのに家事育児がおろそかなのはもったいないと思った。女性議員の割合や女性管理職の割合も低いそう。世界的な会議で代表が男性ばかりと女性の社会進出は遅れている。

このような事実を初めて知った時、まずは自分で調べたこと、学んだことを考える。そしてそれを発表して周りの人に伝える活動をしてほしいという高須大使の言葉はとても大切だと思った。

自分で行動することが日本や世界を動かせる力になると思った。

自分の住んでいる町や地域などの小さなコミュニティから発信していくことは可能だしその行動が各地で起こることで持続可能な社会が実現できることを皆さんに知ってもらいたい!

今までは自分の意見や考えを積極的に発表することはなかった。

実行委員会での活動を発表したことで、多くの人にとっては知らないことだと気づき、会場で校則についてや色々な質問を受けて答えられたことは自信になったし、身近な問題としてとらえられたことは良かったのではないかと思う。

今後はもっと多くの人に自分の意見を発表し、皆さんが SDGs に関する知識やジェンダー問題を知ってもらえるように活動したい！

(ジェンダー)

第一高校 1年 H.T

「ジェンダー」のことについて自分が知らなかったこと、知らないことで誰かを苦しめていることを実感した。

アンコンシャスバイアスという無意識のうちに偏見や差別的に物事を考えてしまっている気持ちが自分にも少しあったと思った。だからこそ自分にもできる、調べて、考えて、周りに伝えていく活動に積極的に参加しようと思った。

特に、YWCA ジェンダー委員会の訪問で、どんな問題や課題があるのか、ウィメンズマーチやカラフルスペースなどの取り組みでそれらを解決していくことなどを知って自分もこのような活動にどんどん参加したいと思った。

今後は学んだことを自分の生活に活かして、様々な視点で物事を考えることができるようにしたいし、ユニセフの活動にも積極的に参加して自分の視野を広げていきたい！

(私たちが考える幸福度)

第一高校 2年 M.Y

私たちは多くの人々が幸せを感じるにはというのをテーマに幸福度について考えた。

日本の子どもの精神的幸福度は低いということを知り、同じ世代の高校生が幸せと感じてない人はどんな人なのかを知りたいと思い 3つの高校の学生にアンケート調査をした。アンケート結果から幸せと感じてない人は自己肯定感の低い人や睡眠不足の人が多分かった。自己肯定感を上げるためには、人を頼ったり、挨拶をしたり、感謝の言葉を伝えたり当たり前のことを意識して生活することが重要だと考えた。

家庭内のことや家庭の経済状況、いじめや自傷行為の実態、死についての考え方など直接的な原因についてや孤独というものについてももっと知りたいと思った。

幸せの基準は、統計などでは計ることはできないことを感じ、少数派の人たちのことももっと知りたいと思った。幸福に対する考え方を想像したり、知ったりすることが楽しくそこから学ぶことが多く面白いと思った。

(住みやすいまちづくり)

熊本工業高校 2年 O.F

住みやすいまちづくりは私が建築学科で学んでいる町計画の知識を活かして SDGs について考えることができるのではと思いこのグループに入った。

交通の面では、高校生の移動手段としての自転車の専用道路や事故発生率、公共交通機関の安全に利用できるルールの見直し、子供専用車輛設置について考えた。

子育てしやすいまちには子育てしている家族だけではなくそれ以外の誰にとっても住みやすいまちになるし、福祉施設の充実が必要である。子育てしやすいまちを作れば、地方にとっては、移住者も増え、過疎化、働き手不足の解消。都市部にとっては、過密化、住宅不足の問題解決に繋がると考える。

このシンポジウムで SDGs について初めて真剣に考えることができ、自分の知識を活かして貢献できる分野があると感じた。将来、家や道路の設計をしていく中で、今回のシンポジウムで調べたこと、感じたことを思い出しながら仕事をしようと思った。

(住みやすいまちづくり)

第一高校 2年 S.F

私は小さいころから地域の人と交流する機会が多く活動してきた。

今回安全・安心なまちはどういうものかをポイントに考えた。

対策として定期的な防災訓練をすることでまちなりの繋がりができるし、まちなりの顔も分かる。熊本地震を体験して、地域の絆や支え、関わりが大切なことが分かった。

最近外国人の家族との関わりもでてきたし把握していなければいけないと思う。

地域社会活動を高めることで住みやすいまちになるのだと思った。

「ハンドインハンド」

第一高校 2年 K.T

募金で集まったお金は、世界で困っている子どもたちの命や健康を守るために使われる。

世界には助かる命も病院に行けず5歳未満で亡くなる子が年間で520万人もいる。栄養不足だったり、働くために学校に行けない子どもたちのために募金は使われる。

100円でワクチン5回分、1錠で4~5ℓの水をきれいにするのできる浄水剤320錠分になる。

今回の募金で25万1817円集まった。人の優しさから集まったこの募金は直接困っている子どもたちに届く。私は今まで当たり前で生活していたことに感謝しなければと思った。

募金活動をしてみて、協力してくれる人が沢山いて、温かいお言葉をかけて下さったり、ほほえましい場面があり、人の温かさに触れることができた。これからは自分にできる活動、伝える活動をしていきたい！

「質問・感想」

- 谷口会長の言葉で「誰一人取り残さない」というSDGsはとても大切だと思った。
- 熊本はSDGsの企業の取り組みは日本で1番なのに男性の家事負担率が最下位にびっくりした。このことを家族にも説明して自分も心がけようと思った。
- 100円で救えるワクチンや浄水剤のことを知ったので、これからは積極的に募金活動に参加したいと思った。
- 地球は水不足なのに水素エネルギーを推進するのはなぜ？

「総評」 谷口会長

自分の良いところを自分で意識してほしい！その部分を伸ばしていけば将来明るい方向に行く！

学んで、自分の言葉で表現できるようになるとどんどん良くなる。

違う観点から考えることも大切だし、それをまとめて発表することをやってほしい。

人に話すことで自信になるし勉強にもプラスになることを信じてやってほしい！